令和８年度

大学院人間文化学研究科（博士後期課程）

学 生 募 集 要 項

日 程 表

項　　目	日　　程
出 願 期 間	令和８年１月１３日（火）～１月２１日（水）
試　験　日	令和８年２月１３日（金）
合 格 発 表	令和８年２月２７日（金）

滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

出願にあたっての個人情報の取り扱いについては、下記のとおりとします。

本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」ならびに「公立大学法人滋賀県立大学個人情報の保護等に関する規程」等により関係法令を遵守し、出願時に大学が取得した氏名、住所その他の個人情報は、下記の目的以外には利用いたしません。

①入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理等）、合格通知、入学手続案内、入学者選抜方法の調査・研究等の入試事務および付随する業務
② 合格者のみ入学に伴う教務事務（学籍、修学指導等）、学生支援事務（健康管理、奨学金申請、後援会等）、授業料等の収納事務および付随する業務

また、上記事務処理の一部を外部に委託し、個人情報を受託業者に提供した場合は、関係法令等により、個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止、その他個人情報の適切な管理に必要な措置に万全を期します。

［注意］
・問い合わせがあっても、本人以外には志願者の氏名・住所その他の個人情報は一切お知らせできません。
・駅、バス停、大学周辺で合否連絡・下宿案内等と称して個人情報を収集していることがありますが、本学ではそのような行為は一切行っていないので注意してください。

目　　次

Ⅰ　人間文化学研究科の概要および入学者の受入方針

１．研究科の構成　…… 1
２．教育研究の特色　…… 2
３．入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）　…… 2

Ⅱ　入学者の選抜について

１．専攻別募集人員　…… 5
２．出願資格　…… 5
３．選抜方法および試験日程等　…… 6
４．出願書類　…… 7
（別表）研究調書等　…… 8
５．出願手続　…… 9
６．合格発表　…… 9
７．注意事項　…… 9

Ⅲ　入学手続、初年度納付金

１．入学手続　……１０
２．初年度納付金　……１０

Ⅳ　講義等の内容、担当教員および研究内容

１．講義等の内容　……１１
２．担当教員および研究内容　……１３

Ⅰ　人間文化学研究科の概要および入学者の受入方針

現代社会では、高度な科学技術の発達によって物質的豊かさが満たされてきた反面、精神的豊かさが失われ、さらに物質的豊かさの内実も必ずしも健康で安全な生活を保障するものとはいいがたいといえます。

そこで、物心共に豊かな社会を実現するために、伝統文化の再生、新たな文化と生活環境の創造が強く求められています。

このため、人間文化学研究科では、さまざまな地域社会の文化・社会環境および生活空間・生活材・人間関係を人文・社会科学と自然科学の双方から多面的に研究し、それらを総合的に検討する人材を育成し、より高度な学術研究と教育を推進するため、博士前期（修士）課程を引き継いで、本研究科博士後期課程に地域文化学専攻と生活文化学専攻の２専攻を設置しています。

１．研究科の構成

(1) 地域文化学専攻

本専攻においては、新しい時代に適合する地域社会はいかにあるべきかを考える教育研究を展開します。グローバリゼーションが進む一方で、逆に地方主権の必要性が説かれているなど、時代は変わりつつあります。こうした難しい状況のなかで地域社会はどうあるべきかを考えることが本専攻の目標です。この目標のために本専攻には、日本・歴史文化論研究部門、日本・現代地域論研究部門、国際文化論研究部門を置いています。

日本・歴史文化論研究部門では、近江や日本を中心に、地域社会の構造や文化を歴史的に考察するとともに、隣接地域にも視点を拡げ、日本文化との交流や異同性・関連性について教育研究を行います。

日本・現代地域論研究部門では、近江や日本を中心に、隣接地域にも視点を拡げながら、地域社会の現状を、社会学・地理学・民俗学・地域計画学・保存修景学・文化人類学などの調査分析手法を用いて、背景にある地域社会の構造や社会意識を明らかにしつつ、地域活性化をはかるための方法を探ることを目的とした教育研究を行います。

国際文化論研究部門では、グローバル化というマクロ的状況の中で展開されている、アジア及び欧米地域の言語・文化・社会にかかる諸現象を、文化人類学・近現代史・言語学・文学などの学問的手法を駆使して教育研究を行います。さらにこうした研究成果を世界に向けて情報発信するための教育を推進していきます。

(2) 生活文化学専攻

本専攻においては、生活科学、人間科学の立場からライフスタイルと人間関係の問題を対象とする高度な教育研究を行います。すなわち、人間のライフサイクルの全体を通して、生活と社会との関わりを、生活デザイン、健康と栄養、人間関係の諸領域にわたって綿密に再検討し、真に充足された健康で快適な生活文化と生活環境を見いだすための教育研究を行います。このため、本専攻内に、生活デザイン論研究部門、健康栄養論研究部門、人間関係論研究部門を置いています。

生活デザイン論研究部門は、生活の中でのデザインを探究し、健全なライフスタイルと生活環境をデザインすることを目的とする教育研究を、学際的な立場から展開し、新しい生活デザ

インの構築に努めます。

健康栄養論研究部門は、健康と栄養に関する基礎から応用までの栄養科学にかかわる諸問題に関して、幅広い視点から理論的・実証的研究を行います。

人間関係論研究部門は、社会的に望まれる生活環境の中での人間関係の構造的・機能的特性を解明するために、人間の発達と形成、言語やコミュニケーションのメカニズム、人間行動の機構、現代社会の人間関係や比較文化などに関し、教育学、心理学、社会学、コミュニケーション論などの立場から学際的に追究する教育研究を行います。

2．教育研究の特色

（1）本研究科博士後期課程は、それぞれの専門部門の研究を進めるとともに、「地域と生活に根ざした視点」を共有し、研究部門間の教育研究にわたる学際的連携を進めるとともに、学内外の共同研究プロジェクトに参加し、総合的な研究を展開します。とくに地域文化学専攻では、環琵琶湖からアジアに広がる地域学を学内外と共同で学際的に展開します。

（2）学際性と独創性を高めるために、学生は他研究科教員を含む教員、協力関係にある研究機関のスタッフなどの指導を受けることができます。ただし、最終的な指導責任は学生の所属する専攻の主任指導教員が負います。

（3）大学院教育に広がりを持たせるため、外国人留学生の受入れ、外国を含む他大学院との連携をも進めます。

3．入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）

（地域文化学専攻　日本・歴史文化論研究部門、日本・現代地域論研究部門、国際文化論研究部門）

地域文化学専攻では、日本および世界における「地域」の歴史、特性をより高度な専門的知識をもとに分析し、それが激変する現代社会の中においてどのような意味を持ち、また未来に向けてどうあるべきかを考究します。そのために、次のような学生を求めています。

(1)　求める学生像

① 地域の特性やその未来に関心をもつ人(興味・関心・意欲)

② 歴史学・考古学・美術史・民俗学・社会学・文化人類学・保存修景学・地理学・地域計画学・世界遺産学・文学・文化史・言語学に関する専門的な知識をもち、関連する文献を読みこなすことができる人(知識・理解)

③ 史料読解、発掘、測量、社会調査、データ分析、語学など各分野に必要とされる専門技術、知識を身につけた上で各自の課題に取り組める人(知識、技術・技能、思考・判断)

④ 地域文化に関する調査結果を分析し、研究成果を論文としてまとめるとともに、外部に公表する能力を持ち、国際的な場で活躍できる研究資質を持つ人(知識・理解、技術・技能、思考・表現)

(2)　入学者選抜の基本方針

入学試験では、大学院博士前期課程までの教育課程を重視し、基礎的理解(知識・理解)、専門領域に関する高度な洞察力(思考・判断)、博士後期課程における研究の方向性(興味・関心)、および技術的な研究遂行能力(技術・技能)を判断します。このため、専門に関する設問を含む面接試験を実施します

(3)　選抜方法

地域文化に関する専門的理解(知識・理解)に加え、専門分野に関する研究意欲(興味・関心・意欲)、大学院における研究方針(思考・判断)、研究遂行能力(技術・技能)、および表現能力（思考・表現）を重視します。このため、修士学位論文および研究調書等に基づいた専門分野に関する設問を含む面接を課します。

(生活文化学専攻　生活デザイン論研究部門)

生活デザイン論研究部門では、生活デザインに関するより高度な専門知識と技術を持ち、道具・住環境・服飾・構想の各分野で将来のリーダーとして活躍する人材を養成します。

(1)　求める学生像

① デザインに関するより高度な専門知識と技術を身につけ、企業、行政、教育・研究機関等で高度専門職業人として活躍する意志をもつ人（関心・意欲）

② デザインに関する問題を解決するために、周囲の人々に自分の考えを伝え、リーダーシップを含む主体性をもって協働作業に取り組むことができる人（表現力・協働性）

③ デザインに関する専門知識と技術を修得できている人（知識・理解）

④ 自身のもつ専門知識と論理的思考に基づいて研究テーマを決定し、研究計画を立て、その計画に基づいて研究を遂行できる人（思考力・判断力）

(2)　入学者選抜の基本方針

生活デザイン論研究部門の入学試験では、面接によって、生活デザイン研究のための関心・意欲、表現力・協働性、知識・理解、思考力・判断力を評価します。

(3)　選抜方法

面接では、これまでの研究・実務経験、作品、研究論文、今後の研究計画等を総合して、生活デザイン論研究のための「関心・意欲」、「表現力・協働性」、「知識・理解」、「思考力・判断力」を評価します。「作品、研究論文」は提出物に対する審査を行います。

(生活文化学専攻　健康栄養論研究部門)

健康栄養論研究部門では、生命科学に基づいた栄養学、健康科学に関するより高度な専門知識と技術を持ち、疾病の予防や治療、健康の維持・増進などの諸分野で将来のリーダーとして活躍する人材を養成します。そのために、次のような学生を求めています。

(1)　求める学生像

① 博士前期課程までに修得する程度の栄養学、健康科学に関する専門知識と技術を修得できている人（知識・理解）

② 国内外の医療・福祉機関、行政機関、研究・教育機関、企業等で高度専門職業人として活躍する意志をもつ人（関心・意欲）
③ 栄養学、健康科学に関する問題を解決するために、周囲の人々に自分の考えを伝え、リーダーシップを含む主体性をもって協働作業に取り組むことができる人（表現力・協働性）
④ 自身のもつ専門知識と論理的思考に基づいて研究テーマを決定し、研究計画を立て、その計画に基づいて研究を遂行できる人（思考力・判断力）

(2) 入学者選抜の基本方針

健康栄養論研究部門の入学試験では、大学院博士前期課程までの教育課程を重視し、栄養学、健康科学に関する関心・意欲、表現力・協働性、知識・理解、思考力・判断力を評価します。このため、面接と修士論文等の審査を課します。

(3) 選抜方法

面接では、これまでの研究・実務経験、今後の研究計画等を含む栄養学、健康科学を主とした生命科学に関して、「関心・意欲」、「表現力・協働性」、「知識・理解」、「思考力・判断力」を評価します。
修士論文等の審査では、「知識・理解」、「思考力・判断力」、「表現力」を評価します。

（生活文化学専攻　人間関係論研究部門）

人間関係論研究部門では、心理学・社会学・教育学の３つの学問分野を基礎とする人間関係学に関する、より高度な専門知識と技術を持ち、研究者として、あるいはさまざまな共同体で人間関係の構築に携わる将来のリーダーとして活躍する人材を養成します。そのために、次のような学生を求めています。

(1) 求める学生像

① 人間関係学に関するより高度な専門知識と技術をもとに、国内外のさまざまな共同体において高度専門職業人として活躍することができる人（関心・意欲）
② 人間関係学に関する問題を解決するために、周囲の人々に自分の考えを伝え、リーダーシップを含む主体性をもって協働作業に取り組む意志をもつ人（表現力・協働性）
③ 博士前期課程程度の人間関係学に関する専門知識と技術を修得できている人（知識・理解）
④ 自身のもつ専門知識と論理的思考に基づいて研究テーマを決定し、研究計画を立て、その計画に基づいて研究を遂行できる人（思考力・判断力）

(2) 入学者選抜の基本方針

人間関係研究部門の入学試験では、面接と修士論文等の審査によって、人間関係学に関する関心・意欲、表現力・協働性、知識・理解、思考力・判断力を評価します。

(3) 選抜方法

面接では、修士論文を含むこれまでの研究および実務経験、今後の研究計画等について、人間関係学に関する「関心・意欲」、「表現力・協働性」、「知識・理解」、「思考力・判断力」を評価します。

Ⅱ　入学者の選抜について

1．専攻別募集人員

専　　攻	部　　門	募　集　人　員※
地域文化学専攻	日本・歴史文化論研究部門 日本・現代地域論研究部門 国際文化論研究部門	3　人
生活文化学専攻	生活デザイン論研究部門 健康栄養論研究部門 人間関係論研究部門	2　人

※ 募集において、「一般」・「社会人」・「外国人」の区別はしません。

2．出願資格

次の(1)から(7)のいずれかに該当する者

（1）修士の学位を有する者および令和8年3月31日までに取得見込みの者（注1)(注2)

（2）外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和8年3月31日までに授与される見込みのある者（注1)(注2)

（3）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和8年3月31日までに授与される見込みのある者（注1)(注2)

（4）我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および令和8年3月修了見込みの者

（5）文部科学大臣の指定した者［平成元年文部省告示第118号］（注3）

（6）本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和8年3月31日までに24歳に達するもの（注4）

（7）外国人の場合は、上記（1）～（6）のいずれかの資格を持ち、かつ、日本語を理解できる者

（注1）修士の学位の種類は問いません。

（注2）出願資格(1)、(2)、(3)のうち、修士の学位（または修士に相当する学位）を取得見込みで出願する場合、令和8年3月31日までに取得できないことが確定した場合には、合格しても入学資格を失うことになります。

（注3）出願資格(5)に該当する者とは、次の①または②に該当し、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。

①大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者

②外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者

（注 4）出願資格（6）に該当する者には、大学を卒業した者のほか、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者や外国大学日本校、外国人学校等の修了者等も含まれます。

出願資格(5)､(6)で出願しようとする者は、出願資格の事前審査を行うので、あらかじめ本学教務課入試室へ申し出て、次の書類を提出してください。

提出書類：①出願資格認定申請書(様式Ｉ票)
②出願書類一式(Ｆ票および入学検定料を除く。)

提出先等：提出期間　令和７年12月12日(金)～12月19日(金)まで
提出場所　滋賀県立大学教務課入試室

審査の結果は、令和８年１月６日(火)までに本人あてに通知しますので、出願資格を認定された者は、出願書類の受付期間内にＦ票および入学検定料を追加提出・振込してください。

※持参による受付時間は、午前９時から午前11時30分および午後０時30分から午後５時までとします。（土日祝日を除く。）

３．選抜方法および試験日程等

修士論文等の審査および面接の結果を総合して選考します。

試　験　日：令和８年２月１３日(金)
試　験　場：本学人間文化学部棟

専　　攻	試験科目	試験時間	試 験 の 内 容
地域文化学専攻	面 接	10:00 ～	修士学位論文および研究調書等に基づいた専門に関する設問を含む。
生活文化学専攻	面 接	10:00 ～	専門に関する設問を含む。

４．出願書類

出願に必要な書類		作　成　方　法
A票	入学（進学）志願票	本学所定の様式によること。 ＊学業成績証明書等に記載された氏名と異なる場合は、氏名を変更したことを証明する書類をあわせて提出してください。
B票	履　歴　書	本学所定の様式によること。
修士学位論文		修士の学位論文またはこれに代わるものを１部印刷およびPDFデータをCD等で提出すること　※１
研究調書等		別表（p. ８）に記載の「研究・実務経験調書（J-1 票）」、「業績一覧書（J-2 票）および論文等」、「研究計画書（J-3 票）」
大学院学業成績証明書		◆出願資格（１）（２）（３）（４）該当者◆ 出身大学院の学長または研究科長が作成したもの ［ただし、本学を令和７年度に修了見込で進学を志望する者は提出不要］
大学等学業成績証明書		◆出願資格（５）（６）該当者◆ 最終学歴の大学等の長が作成したもの
修士（博士前期）課程修了（見込）証明書		◆出願資格（１）（２）（３）（４）該当者◆ 出身大学院所定のもの ［ただし、本学を令和７年度に修了見込で進学を志望する者は提出不要］
大学等卒業証明書		◆出願資格（５）（６）該当者◆　　最終学歴の大学等所定のもの
学位授与証明書または学位授与申請に係る証明書		学校教育法第104条第７項の規定による学位授与の場合に提出する。
住民票の写し（外国人のみ）		市区町村長が発行したもので、在留資格を明記したもの （原本を提出すること。）
C票	住　所　票	合否の通知書等送付先の住所を記入すること。
D票	受　験　票	縦４㎝×横３㎝の写真（上半身、無帽、正面向き、背景なし、出願前３か月以内に撮影したもの）を写真貼付欄に貼付すること（D票・E票とも同じ写真であること）
E票	写　真　票	
F票	入学検定料振込確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付すること。＊日本に居住していない者にあっては、払込方法を指示するので、事前にインターネットのE-mailまたは郵便で教務課入試室まで問い合わせること
G票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、**普通郵便分の切手を**貼付すること。＊日本に居住していない者にあっては、航空便書状料金（20ｇ）に速達料金を加えた「国際返信用切手券」を同封すること。
H票	出願書類提出用封筒	「志望研究科・専攻・部門」欄、「志願者」欄に必要事項を記入すること。
I票	出願資格認定申請書	出願資格（５）、（６）で出願しようとする者は、本様式に必要事項を記入し、出願に先立って所定の期間内に提出すること。

入学検定料　３０，０００円

・入学検定料は本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の１週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ＡＴＭ（現金自動預け払い機）は利用できません。

・振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。

※１　＜地域文化学専攻の場合＞内容は、志望専門分野に関するものであること。修士学位論文が志望専門分野に関わらない内容の場合は、これに代わる志望専門分野に関する論文を提出すること（いずれの場合も日本語で、字数は24,000字以上）。なお、外国語（英語を含む）で書かれた論文の場合は、原本と日本語の概要（5,000字程度）を提出すること。

（注１）A票～I票および「入学検定料振込依頼書」の各書類は、本冊子に添付されています。

（注２）**英語以外の外国語で書かれた書類については、日本語訳または英語訳を添付してください。**

（別　表）

研　究　調　書　等

研 究 調 書 等	摘　　要
1 研究・実務経験調書（ Ｊ－１票 ） これまでの研究の概要または実務経験・職務上の業績をまとめたもの。 研究業績、実務経験・職務上の業績の両方にわたってもよい。	和文 2,000 字以内、あるいは英文 600 語以内（Ａ４縦長・横書き）
2 業績一覧書（ Ｊ－２票 ）および論文等 学位論文・学術論文・学会発表・特許などの研究業績、および製品開発・システム開発・プログラム開発・書誌作成・プロジェクトへの参加など実務上の業績のリスト（共同開発の場合には何を分担したかを付記すること）。 **学位論文および主要学術論文は、別刷（または写し）を各１部添付すること。**	学術論文については、著者名（共著者名を含む）、論文の表題、学協会誌名、巻、最初と最後のページ、発表年月（西暦）を記入すること。英語以外の外国語で書かれた論文については、日本語または英語の概要を付けること（別紙［Ａ４縦長・横書き］の添付可）。ただし、地域文化学専攻については、外国語（英語を含む）で書かれた修士学位論文の概要は日本語とする（７ページの※１を参照）。 学会発表については、発表者名（共同発表者名を含む。）、発表の表題、発表学会名、発表年月（西暦）を記入すること。 プロジェクトについては、プロジェクト名、期間、プロジェクトの概要、自分の役割を記入すること。
3 研究計画書（ Ｊ－３票 ） 研究を希望する研究テーマについて、研究計画をまとめたもの。	**＜地域文化学専攻＞** 和文あるいは英文で４ページ程度（Ａ４縦長・横書き）。 なお、次の項目にしたがって具体的に書くこと。 (1) 研究の背景 (2) 研究の目的、内容 (3) 研究の特色、独創的な点 (4) 年次計画（1 年目、2 年目、3 年目） **＜生活文化学専攻＞** 和文 2,000 字以内、あるいは英文 600 語以内（Ａ４縦長・横書き）

（注）Ｊ－１～３票の各書類は、本冊子に添付されています。

5．出願手続

(1) 受付期間　令和８年１月１３日(火)～１月２１日(水) まで(必着)

出願にあたっては出願書類提出用封筒[H票]を用い、郵送または直接持参してください。

なお、**郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、受付期間最終日必着**とします。また、持参による受付時間は午前９時から午前11時30分および午後０時30分から午後５時までとします。(土日を除く。)

(2) 願書提出先　〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町２５００

滋賀県立大学　教務課入試室　℡：0749-28-8217・8243

E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp

※日本に在留していない者で、受験のための在留資格「短期滞在」の取得に日時を要する場合は、事前に上記まで相談してください。

6．合格発表

令和８年２月２７日(金)　午前９時

大学のホームページ（https://www.usp.ac.jp）に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します。（発表後10日以内に送付します。）

なお、電話等による合否の問い合わせには応じません。

7．注意事項

(1) 一度受付をした出願書類および入学検定料は､理由のいかんを問わず返還しません。

(2) **出願期間を過ぎて到着したものは受け付けません**ので、郵送に関しては所要日数を十分に考慮して発送してください。

(3) 入学を許可した後であっても､出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。

(4) **出願受付後には出願事項の変更は認めません。**ただし､氏名､住所､電話番号に変更があった場合には、募集要項裏表紙の問い合わせ先まで連絡してください。

(5) 心身に障がい(学校教育法施行令第22条の3に定める障がいの程度)がある入学志願者は、受験上および修学上特別の配慮を必要とすることがありますので､令和7年12月19日(金)午後５時までに連絡し、相談してください。

(6) 外国人は、入学時までに、「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」において大学院入学に支障のない在留資格の取得が必要となります。在留資格の取得ができない場合は、入学が許可されないことがあります。

(7) 志願者は、出願に際して志望研究部門および担当教員を決定するに当たり、事前に希望する教員に直接連絡をとることが望ましいです。

(8) 悪天候、災害、感染症のまん延等による不測の事態により、試験の延期や中止、選抜方法を変更する場合があります。その際は、大学ホームページ(https://www.usp.ac.jp/)により周知しますので、滋賀県立大学からの情報発信に注意してください。

(9) その他不明な点は、募集要項裏表紙の問い合わせ先まで問い合わせてください。

Ⅲ　入学手続、初年度納付金

１．入学手続

(1)入学手続期間　　令和８年３月９日(月)～３月１６日(月)（必着）

入学手続に必要な書類は、合格通知書に同封して郵送します。

（２）入学手続先

〒522-8533　滋賀県彦根市八坂町２５００

滋賀県立大学 教務課入試室　℡：0749-28-8217・8243

（３）入学手続上の注意事項

①期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。

②一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

２．初年度納付金

(1) 入学料　① 滋賀県内に住所を有する者　**２８２,０００円**

② その他の者　　**４２３,０００円**

（注１）滋賀県内に住所を有する者とは、次のいずれかに該当する者のことであり、「住民票の写し」の提出が必要です。

ア　入学の日の１年前（令和７年４月１日）から引き続き滋賀県内に住所を有する者

イ　入学の日の１年前（令和７年４月１日）から引き続き滋賀県内に配偶者または１親等の親族（生計を一にする者に限る。）が住所を有する者

（注２）本学大学院博士前期課程修了見込みの者で、引き続き博士後期課程に進学する者については、入学料は不要です。

(2) 授業料　①　**年額　５３５,８００円**

（注）令和７年度の額であり、改定されることがあります。

なお、在学中に授業料が改定された場合には、改定後の授業料が適用されます。

②　納付方法

前期（納付期限５月 27 日）、後期（同 11 月 27 日）の２回の分納です。

Ⅳ　講義等の内容、担当教員および研究内容

1．講義等の内容（変更される場合がある。）

(1) 地域文化学専攻博士後期課程

授業科目名	講義等の内容
日本・歴史文化論 特別演習	専門分野・隣接分野について、日本あるいは隣接地域・各時代を扱った研究論文などを精読し、基礎理論、方法論および先行研究の成果に関する理解を深める。
日本・歴史文化論 特別研究	日本あるいは隣接地域における地域文化の領域について、歴史的・国際的視点に立脚し、理論的・応用的な研究課題を設定させ、分析方法、調査方法、研究成果のまとめ方などについて高度な指導を行う。
日本・現代地域論 特別演習	専門分野・隣接分野について、日本あるいは隣接地域・各時代を扱った論文や調査報告書を精読する。また、現地調査を実施させ、その際に作成したフィールドノートをもとに討議する。
日本・現代地域論 特別研究	日本あるいは隣接地域における現地調査などをもとにしながら、地域社会の形成、発展、現状を分析し、実態解明を図る。また、その成果から、対象地域の活性化をはかる方法も検討させながら、博士論文にまとめるよう指導する。
国際文化論特別演習	アジアや欧米の言語・社会・文化に関する文献を精読すると同時に、討論を通じて批判的に検討する力を養う。また学生は、複数の部門教員の参加の下で、フィールドワークや文献調査による研究発表を行う。
国際文化論特別研究	アジアや欧米の言語・社会・文化に関する諸現象を、文化人類学や歴史学、言語学・文学の理論・方法論を駆使して解明していく。その際、博士論文以外に積極的に学会発表や論文執筆を行うよう指導していく。さらに外国語による発表や論文執筆も推進していくものとする。
研究方法特論	学生が幅広い視野の元に研究をすすめていけるよう、関連する研究領域の研究方法について、主たる指導教員以外からも指導を受けられる機会をつくる。学生は研究テーマの追求にあたって、それに関連する領域を担当する複数の教員（主たる指導教員以外の教員）の研究室を訪問し、研究テーマ、研究方法、研究倫理、そのほか研究者として必要な技法や理論的知識について個別指導を受ける。
リサーチ・ ワークショップ	学生の研究を個々の専門分野の垣根を越えて組織的・多面的に指導・支援するために、履修者全員と指導担当教員全員が出席するワークショップを年２回ほど開催する。履修者は事前に報告要旨を提出し、その上で自らの研究計画・研究報告を発表し、質疑を受ける。ワークショップ終了後、質疑応答の結果を踏まえて改善した研究計画書および論文執筆計画書をまとめる

(2) 生活文化学専攻博士後期課程

授業科目名	講義等の内容
生活デザイン論 特別演習	生活デザイン論のなかでインテリア、住居、都市・地域を含む集住デザイン、道具デザイン、服飾デザインの各分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、紹介し、そして討論し、それらの分野の知見と研究動向を把握させ、研究方法を更に修得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。
生活デザイン論 特別研究	住居デザイン、都市・地域デザイン、道具デザインおよび服飾デザインなど生活デザインの分野における理論的分野並びにこれらの横断的な分野に関するテーマについて、複数の教員によって指導し、その成果を博士論文にまとめさせる。
健康栄養論特別演習	健康栄養論に関する知見の進歩・国際比較を考慮に入れて、最新の研究論文・総説を紹介させ、質問と討論を行う。また、研究動向や方法に関する情報を深め、研究の方向性を洞察できる能力を学習させ、研究者として独り立ちできる能力を身につけさせる。
健康栄養論特別研究	生化学、栄養学、生理学などの幅広い健康・栄養科学領域から、健康に関する諸問題を総合的並びに学際的に捕らえさせる。これらの健康栄養に関する諸研究分野から、学生が選択したテーマについて複数の教員によって研究指導を行い、その成果を博士論文にまとめさせる。
人間関係論特別演習	人間関係論の研究部門に関する諸問題を演習形式で指導する。文献研究、行動観察、心理実験、社会調査などによって、学生各自が研究テーマを追究し、同時にその方法論について学べるよう指導する。
人間関係論特別研究	人間関係論の立場から人間関係の基本的構造とその機能的特性を追究し、社会における望ましい人間関係のあり方を学際的に解明するための研究指導を行う。各自が研究テーマを設定し、それぞれの課題について理論的・実証的に研究した成果を博士論文にまとめるよう指導する。
研究方法特論	学生が幅広い視野の元に研究をすすめていけるよう、関連する研究領域の研究方法について、主たる指導教員以外からも指導を受けられる機会をつくる。学生は研究テーマの追求にあたって、それに関連する領域を担当する複数の教員（主たる指導教員以外の教員）の研究室を訪問し、研究テーマ、研究方法、研究倫理、そのほか研究者として必要な技法や理論的知識について個別指導を受ける。
リサーチ・ ワークショップ	学生の研究を個々の専門分野の垣根を越えて組織的・多面的に指導・支援するために、履修者全員と指導担当教員全員が出席するワークショップを年２回ほど開催する。履修者は事前に報告要旨を提出し、その上で自らの研究計画・研究報告を発表し、質疑を受ける。ワークショップ終了後、質疑応答の結果を踏まえて改善した研究計画書および論文執筆計画書をまとめる。

2．担当教員および研究内容

(1) 地域文化学専攻博士後期課程

【日本・歴史文化論研究部門】

職 名	担当教員	専門分野	担当科目（前期課程）	研究内容
教 授	カメイ ワカナ 亀井若菜	日本美術史	美術史特論A 美術史特論B	中世の絵巻を主な研究対象としている。絵の中には、絵を作った人、作らせた人の願望や欲望、価値観が表されていると考え、絵の意味や機能を、絵が作られた社会的歴史的状況から考えている。特に女性や土地を描く絵を対象とし、それが誰の視線を通した表象であり、そこにどのような権力が作用しているのかを研究している。また日本美術史という学問・言説の体系の成り立ちやその語りに対しても考察を行っている。主著は『表象としての美術、言説としての美術史ー将軍足利義晴と土佐光茂の絵画』。
教 授	キョウラク マホコ 京樂真帆子	日本古代史	女性史・ジェンダー論A 女性史・ジェンダー論B	平安時代の平安京を主たるフィールドとして、貴族社会の生活を研究している。貴族の交友関係、居住形態、その住居の構造などを日本文学・考古学などの他分野の成果も取り入れながら分析している。さらに、平安期の家族・親族構造や婚姻・出産儀礼についての分析など、女性史・ジェンダー史から平安社会を解く研究も行っている。
教 授	アズマ サチヨ 東 幸代	日本近世史	環琵琶湖地域論A 環琵琶湖地域論B	日本近世が現代日本の体質形成に大きな影響力をもったとする立場から、近世の生産・流通構造、支配構造、民衆生活等について検討している。特に、漁業を中心とする諸産業の史的特質や、琵琶湖などの自然を利用した幕藩領主層の民衆支配の特質に関心をもっている。また、地域に残る古文書の活用・保存にも強い関心がある。
教 授	サトウ アセイ 佐藤亜聖	日本考古学	日本考古学A 日本考古学B	土器、都市、石造物など多角的な視野から見た中世社会の成立と展開をテーマとして研究を進めている。奈良を対象とした都市研究では考古学の立場から遺構・遺物の両面から都市の成立過程と寺院・王権の関係を考え、土器研究では列島規模での土器様相、流通の変化に注目している。石造物研究では中世石塔の成立と展開について、中国、韓国などとの関係も視野に置いた研究を行っているが、なかでも採石加工技術に注目し、石塔の増加、多様化と中国寧波を中心とした南宋からの技術移入の関係について研究している。
准教授	キム ウダイ 金宇大	世界遺産学	アジア考古学A アジア考古学B	古代東アジアにおける地域間関係、特に古墳時代における日本列島と朝鮮半島諸地域の相互交流の実態について、考古学的な視点から明らかにすることが研究の目標である。主に、両地域の古墳から出土する副葬品、特に貴金属を用いて装飾した装身具や刀剣を分析対象とし、製品や技術がどのように伝わってきたのかを検討している。加えて、こうした過去の事実を今に伝える種々の遺跡・遺物そのものに対し、その価値をいかに評価すべきかについても関心を寄せている。

【日本・現代地域論研究部門】

職 名	担当教員	専門分野	担当科目（前期課程）	研究内容
教 授	イチカワヒデユキ 市川秀之	日本民俗学	日本生活文化論	近畿地方の村落や都市をフィールドとした歴史民俗学的な研究を行っている。主たる研究テーマは村落空間論、農業水利と村落社会との関係、小都市における民俗文化、近世後期以降の民俗の創出と改変など。既存の民俗学的分類でいえば村制、生業、墓制などの領域を中心とした研究であるが、フィールドワークを通して特定地域における民俗の全体像に迫ることを目的としている。また最近は民俗学の「学」としての形成過程にも関心を持ち、宮座や墓制などの分野で研究史の見直しを行っている。
教 授	ツカモトレイジ 塚本礼仁	人文地理学 地域産業研究	地域産業論A 地域産業論B	主に農林水産物の「産地」を対象とし、形成プロセス、産地機能の維持基盤、成長・衰退の要因、変質の仕組みを探るとともに、持続的発展の可能性についても考察している。具体的な研究素材は、日本人の独特かつ伝統的な魚食文化のもとで食されてきたウナギを作る養鰻産地であり①生産者・組合・流通業者・加工業者などが形作る「産地社会」の実態をフィールドワークによって描き出すこと、②フードシステム（「食」をめぐる社会・経済・政治・文化的な環境）と水産養殖産地との連結構造を解明することを重視してきた。また今後は、琵琶湖漁業・養殖業や滋賀県の淡水魚食文化についても分析を進めたい。
教 授	イシカワ シンジ 石川慎治	保存修景 集落研究	環琵琶湖保存修景計画論 地域文化遺産調査・情報論	伝統的な建造物などで構成される町なみや集落（伝統的建造物群保存地区や文化的景観など）に関する研究を行い、地域文化財としての町なみ・集落景観における保全・継承のあり方について模索している。また、倒壊・解体していたり、絵図などの史料などでしか状況がわからないような現存しない建造物について、ＣＡＤなどを用いながら復元・検討を行い、その建造物や周辺環境を含めた当時の歴史的景観を探っている。

准教授	萩原（ハギハラ） 和（カズ）	地域計画学	地域計画特論	近畿・東海地方を主なフィールドとして、都市および農村の地域計画学の観点から研究に取り組んでいる。具体的には、まちづくり人材育成（行政機関、NPO 等）における支援方策のあり方に関する研究、住民自治組織を対象とした社会ネットワーク視点による組織デザインに関する研究、公共的空間・施設（公園、駅前広場、商店街等）の運営管理に関する研究などを、主たるテーマとして研究を進めている。
准教授	横田（ヨコタ） 祥子（サチコ）	現代中国論 文化人類学	現代中国特論A 現代中国特論B	再生産労働の国際分業化に伴う、女性の国際結婚・労働移住と、家族、コミュニティへのインパクトについて、人類学的な研究を行っている。具体的には、インドネシアから中国系女性が台湾、香港、マレーシアなどへ送出される現象に着目し、上記複数地域での調査を通じて、長期にわたり女性が送出されるメカニズムの解明に努めている。また、女性の移動に伴う子供の移動経験についても、研究を行っている。女性の国際移動は文化人類学、社会人類学では伝統的専門領域ではないが、移動の時代における女性と家族の生を描く重要性を認識し、それを目的としている。
准教授	櫻井（サクライ） 悟史（サトシ）	社会学	社会学特論A 社会学特論B 環琵琶湖地域論A 環琵琶湖地域論B	歴史社会学の手法を用いて、日本社会における「生」と「死」の現代史について研究している。「生」については、人間が生きていく上で重要な娯楽文化を対象としている。具体的には、近畿圏をフィールドとして、盛り場の研究や、ユニバーサル・ツーリズムをはじめとした観光の研究に、文化社会学、地域社会学、都市社会学、観光社会学の視点をふまえつつ取り組んでいる。「死」については、犯罪や刑罰を対象としている。具体的には、死刑、いじめ、体罰などの社会問題の研究に、犯罪社会学の視点をふまえつつ取り組んでいる。

【国際文化論研究部門】

職 名	担当教員	専門分野	担 当 科 目 （前 期 課 程）	研 究 内 容
教 授	呉（ゴ） 凌非（リョウヒ）	言語学 中国語学 言語処理	国際文化論特講H	主として言語の形式化について様々な視点から論じていく。具体的には、以下のとおりである。 1. 文法学者フィルモアのS＝P＋M(Sは文、Pは命題、Mはモダリティ)という式を中心に関連諸説を展開していく。特にモダリティの形式化は言語処理の分野でも注目される課題の1つである。 2. 動詞の分類に関する研究 3. ことばによる点事象と線事象の描写の仕組みに関する研究 4. 中国語および中国語教育に関する研究
教 授	ボルジギン・ブレンサイン	社会史 中国東北・内モンゴル地域論	国際文化論特講D	主な研究内容は以下の通りである。 1. 基本的にはモンゴル全体を視野に入れているが、特に内モンゴル若しくは中国領モンゴル族の歴史と社会変遷を中心としている。それに関連して中国の少数民族問題も視野に入れて研究している。 2. 清末以後における中国東北地域の諸民族の歴史と社会問題、又は満州国期前後の問題にも取り組んでいる。 3. 研究手法は史(資)料の収集、分析と対象地域におけるフィールドワークの結果を結合させることである。
教 授	吉田（ヨシダ） 悦子（エツコ）	言語学 語用論 談話分析	言語科学特論	自然な話しことば、特に対話・談話データを利用したコミュニケーション研究を行っている。研究方法として、自然発話の収集と書き起こし作業、注釈の付与を通し、インタラクションの観察に基づき、文法、意味、談話、語用論などの研究アプローチを多角的に組み合わせる。近年は、多言語・多文化がかかわるワーク・プレイスにおけるコミュニケーションの課題とその解決に向けての支援につながるような言語研究を進めている。また、共通語としての英語や日本語の運用場面に注目して、非母語話者を含む職場のコミュニケーション上の問題解決や、ことばのユニバーサルデザインへの応用に向けて検討している。
准教授	山本（ヤマモト） 薫（カオル）	英文学	英文学特論	以下の通り、物語の分析を通して、同時に歴史・思想・政治についても考察する。 1. 19世紀末から20世紀初期にかけての英国の小説のなかでもとくにジョウゼフ・コンラッド（1857-1924）の海洋冒険物語が、英国の冒険・探検小説の伝統を踏まえながら、同時にいかにそれを挑戦しつつ新しい物語の形式を生み出そうとしているかを明らかにしながら「共同体」と「個人」のありかたを考察する。 2.「共同体」と「個人」の問題を変奏として、海を離れてヨーロッパを舞台とするコンラッドの政治小説を現代の国際社会における「テロリズム」や「戦争」の問題という観点から分析する。 3. コンラッド晩年の歴史小説における「新たな共同体」の概念をヨーロッパ大陸の共同体論に依拠して分析することによって、これまで過少評価されてきた歴史小説を再評価する。

職　名	担当教員	専門分野	担 当 科 目 （前 期 課 程）	研　　究　　内　　容
准教授	ハザマ エイジロウ 間　永次郎	南アジア社会思想史	国際文化論特講Ｅ	主に以下の三つの研究を行っている。 1. 非暴力と宗教的・文化的価値観が抵抗の形態としてどのように社会で機能するかを分析し、政治理論と文化心理学との交差点を探っている。 2. M. K. ガーンディーを中心とした西部インド（現グジャラート州とマハーラーシュトラ州）のミドルクラス知識人の思想と行動を、主にグジャラーティー語とヒンディー語の史料研究と現地調査によって明らかにし、近代インドの宗教ナショナリズムの歴史的系譜を再考している。 3. 伝統と近代性の相互作用、および植民地主義の文化的・政治的遺産が現代のインド人のアイデンティティと社会的実践に与えている影響を分析している。

(2) 生活文化学専攻博士後期課程

【生活デザイン論研究部門】

職　名	担当教員	専門分野	担 当 科 目 （前 期 課 程）	研　　究　　内　　容
教　授	モリシタ 森下　あおい	服飾デザイン 被服構成学	服飾デザイン特論Ａ	服飾デザインは物的、用途的条件のほか、人間が生活していく中での多様な文化、社会的条件と人間の心の中に働く意識によって生み出されている。こうした服飾デザインのもつ特性に注目し、その構成要素を明らかにすることを試みながら、服飾デザインと人間の間に介する創造的な感性特性の解明に着目した研究を行っている。
教　授	フジキ ヨウスケ 藤木庸介	建築設計 建築計画 都市計画 文化遺産観光	住環境デザイン特論Ｂ	人が暮らす地域には、それぞれに生業や習俗・習慣が存在し、こうした生活上の背景によって、各地域に特有の伝統的な居住文化が形成されている。一方、世界的なグローバル化の進行に関連して、こうした地域に特有の伝統的居住文化は希薄化、あるいは消失する傾向にあり、当該居住文化の維持・保全を行う視点から、喫緊の対応が求められている。以上から、各地域に暮らす人々が、自らが持つ伝統的居住文化を観光資源とし、自らによる経済活動を行い、且つ当該伝統的居住文化の維持・保全を行う事を目的とする「自律的観光」の構築に向けて、各地域における現地調査を主な手法とし、各種関連研究を進めている。
准教授	サ サ キ クニヒロ 佐々木一泰	空間デザイン 構法研究	住環境デザイン特論Ｃ	生活デザイン論研究部門における、住居・道具・服飾・構想という４分野を、空間と構法という視点から捉えなおし、デザインの実践的研究を行っている。空間についてはその社会的役割や活用についても研究対象とし、デザインの背後にある構造について研究している。また構法については近現代を対象とし、産業構造や社会背景を含めたモノとしてのつくりかたと、意匠との関係性を研究対象としている。
准教授	ヤマダ アユミ 山田　歩	マーケティング 消費者心理学 行動経済学 行動デザイン	構想デザイン特論Ａ	「買うか、買わないか」、「寄付するか、しないか」など、私たちの社会生活は無数の選択から構成される。こうした選択行動は、選択肢の数、組み合わせ方、選択の仕方といった選択文脈から大きな影響を受ける。選択行動と選択文脈との関連を理解することは、生活者の厚生改善につながる生活空間や消費空間、また、コミュニケーション手法をデザイン・開発する上で重要である。消費者心理学や行動経済学などから得られる行動インサイトと、生活者調査から得られる生活者インサイトを組み合わせながら、「生活者を動かす」理論と手法を研究開発することに取り組んでいる。

【健康栄養論研究部門】

職 名	担当教員	専 門 分 野	研　究　内　容
教 授	ナカイ　ナオヤ 中井　直也	運動栄養学	運動と栄養が生体に及ぼす影響を細胞レベルで解析することによって、健康の維持増進に好ましい運動と栄養摂取法の科学的根拠を明らかにする研究を行っている。①骨格筋の収縮活動に伴って発生するメカニカルストレスが骨格筋の肥大や筋持久力を向上させるメカニズムの解明②アミノ酸特に分岐鎖アミノ酸の生理機能の解明
教 授	タツミ　サワコ 辰巳　佐和子	臨床栄養学	臨床栄養学研究において、個々の栄養素の挙動を基礎として科学的な根拠を提示し、患者治療に発展させることが重要である。１）基礎研究として、疾患モデル動物を用い栄養代謝調節機構の解明　２）基礎研究の成果を基盤とした、栄養管理法の開発研究を行っている。 「研究対象テーマ」①多臓器にわたるミネラル代謝と慢性腎臓病・骨粗鬆症予防研究　②健康寿命延伸を目指した抗老化に関わる栄養代謝研究　③栄養代謝の日内リズムを考慮した栄養管理法の開発
教 授	フクワタリ　ツトム 福渡　努	基礎栄養学	食素材、食品成分、栄養素など食品に関する研究を通じて、栄養学の理論・実践に寄与することを目指している。特に、ビタミンやアミノ酸などの栄養素とヒトの生理機能との間に成立する複雑な相互関係を解明するために、以下の研究に取り組んでいる。①アミノ酸代謝調節による脳機能の保護および制御②食品中の栄養素の生体有効性および栄養状態の評価
准教授	サノ　ミツエ 佐野　光枝	食品栄養学	食餌を構成する栄養組成の違いが生体（ヒトやラット）に与える影響について、分析化学や分子生物学の手法を用いて研究を進めている。特に、妊娠中の食餌内容によって羊水や胎児の血液中の栄養素由来成分濃度がどのように変化するのか、胎児のエピゲノムに与える影響など DOHaD 仮説に注目して研究している。
准教授	イマイ　エリ 今井　絵理	公衆栄養学 栄養疫学	どのような食事が健康維持や生活習慣病の発症予防のためにはよいのかを明らかにすることを目的に、日本人を対象とした栄養疫学研究を行っている。具体的には、国民健康・栄養調査や地域在住の中高齢者を対象とした大規模コホートのデータを用いて、高齢者の健康維持、生活習慣病発症予防に寄与する栄養素、食事パターン解明に取組んでいる。
准教授	ヒガシダ　カズヒコ 東田　一彦	運動生理・生化学	運動や栄養摂取による生体の代謝適応について研究を行っている。 ①運動による骨格筋のエネルギー代謝亢進機序に関する研究 ②機能性食品が骨格筋の代謝適応を引き起こす機序に関する研究

【人間関係論研究部門】

職 名	担 当 教 員	専門分野	担 当 科 目 （前 期 課 程）	研　究　内　容
教 授	タカナシ　カツヤ 髙 梨 克 也	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科学 身体動作学	比較行動論特講	人間を人間たらしめている二つの関係性、すなわち、他者と関わるための「コミュニケーション」と周囲の環境と関わるための「身体動作」のしくみについて、ビデオデータのマイクロ分析を通じて解明していくことを目指している。特に近年は、実社会のさまざまなフィールドでのビデオ収録を行い、人びとの微細な行動の細部にそれぞれのフィールドに固有のさまざまな社会秩序や物理的環境特性が浸透していることを発見したり、こうした発見を各フィールドでの当事者の実践にフィードバックしたりすることを重視している。
教 授	マツシマヒデアキ 松 嶋 秀 明	臨床心理学 発達臨床学	フィールド心理学特講	人間の発達、とくに心理的な障害からの回復過程に興味がある。なかでも、これまでともすれば軽視されてきた、社会－文化－歴史的な文脈の与える影響を重視している。最近は、発達上の心理的問題の一つである非行・不登校問題に興味をもっている。そのため小・中学校におけるアクションリサーチを行っている。またこうしたテーマと関わって、質的な研究の方法論の整備にも関心がある。
教 授	ウエノ　アリ 上 野 有 理	比較認知発達科学	比較行動論特講	「他の動物と同様、ヒトは進化の産物である」という視点に基づいてヒトの行動を理解するため、ヒトを含めた霊長類数種の行動比較をおこなってきた。とくに食行動の発達に関心をもち、味覚や、食事場面における母子間コミュニケーション、他者の情動理解の発達をテーマに研究を進めている。離乳期から就学前の時期に焦点をあてており、乳幼児の養育支援のあり方についても検討していきたいと考えている。

職　名	担　当　教　員	専門分野	担　当　科　目 （前　期　課　程）	研　　究　　内　　容
教　授	オオノ　ミツアキ 大　野　光　明	歴史社会学 社会運動研究	社会学特講	戦後日本の社会運動について研究をおこなっている。特に沖縄をはじめとする基地・軍隊の集中する地域において、いかなる地域住民運動が展開されたのかについて調査を進めてきた。そして、人びとの営みが、ときに、一地域・一国家内部にはおさまらず、国境や人種、民族などの境界線を対象化し、越えていこうとした越境的なダイナミズムに着目している。
准教授	スギウラ　ユカリ 杉　浦　由香里	教育学 教育史	教育学特講Ａ 教育学特講Ｂ	地方教育行政の歴史研究に取り組んでいる。特に、近代日本における地方教育行政の再編過程に焦点をあてて、いわゆる教育行政の諸概念すなわち教育行政の独立と教育の専門性および民意反映の必要性等が各府県の具体的な施策形成過程においてどのように問われつつあったのかを歴史的に分析している。また、学校と地域社会との関係に着目し、地域の教育要求と学校の運営基盤についての歴史研究にも取り組んでいる。
准教授	ホングウユウ　ジ　ロウ 本　宮　裕　示　郎	教育学 教育方法学	教育学特講Ａ 教育学特講Ｂ	学校教育における教育目的・目標と教育評価のあり方について、理論と実践の両面から研究を進めている。理論面では、19 世紀イギリスで教養概念をめぐって論争を展開した T. H. ハクスリーと M. アーノルドの思想をもとに、人格形成という観点から科学と文学が有する意義を考察してきた。実践面では、学校現場との共同研究を通じて、パフォーマンス評価を切り口にして教育目的・目標と教育評価の　より良いあり方について考察している。
准教授	ハラ　　ミ　キ 原　　未　来	教育学 青年期教育	教育学特講Ａ 教育学特講Ｂ	若者の移行過程に関する調査研究をおこなっている。なかでも、不安定な仕事を転々とする非正規雇用の若者や、学校をドロップアウトした若者、「ニート」「ひきこもり」状態にある若者たちの様相に関心がある。若者支援の現場に入り込み、日々の若者たちの変化に立ち会いながら、かれらの成長発達を支える実践要件とはいかなるものか、実践現場との協同的模索をおこなっている。
講　師	ナカムラ　ヨシタカ 中　村　好　孝	社会学 福祉社会学	社会学特講	1. 戦後アメリカの社会学者ミルズを中心とした社会学史研究。学者でない人に対して社会学は何をできるのだろうか。 2. 現代社会の臨床的な諸問題の調査研究。これまでは社会的ひきこもりのフィールドワークを中心に調査を行ってきた。 3. 精神障害者福祉の支援現場との関わりから福祉について学んでいる。

滋賀県立大学

〒522-8533　滋賀県彦根市八坂町2500
TEL 0749-28-8217・8243　FAX 0749-28-8267
ホームページアドレス　https://www.usp.ac.jp
E-mail：nyushi@office.usp.ac.jp